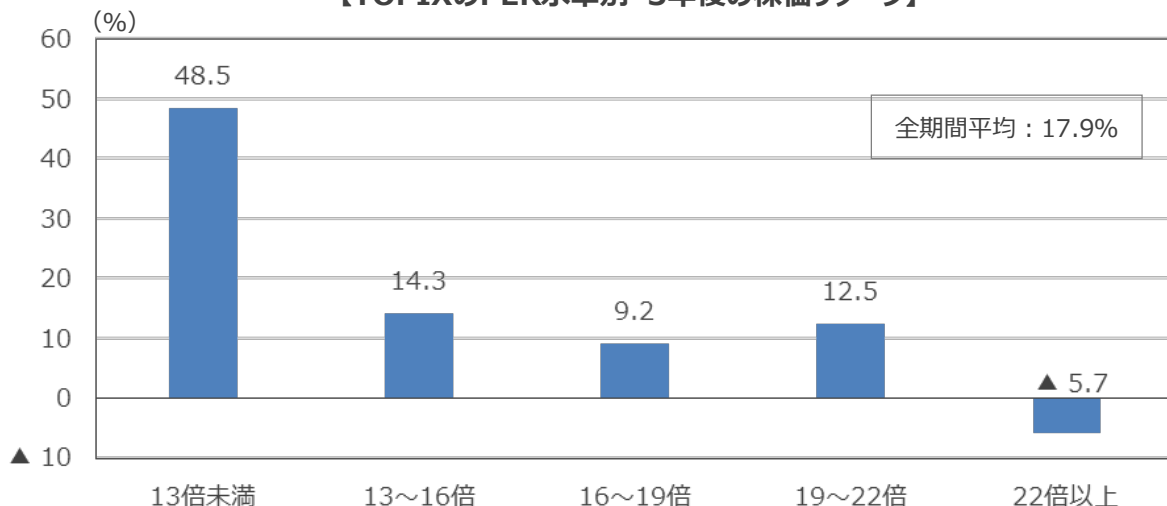


今日のトピック 日本株にまつわる5つの誤解
その4 日本株は割安でも上がらないのでは？
PERが低いと割安、今は過去平均を大きく下回る水準

- 株価が割安かどうかを判断する指標に株価収益率（PER）があります。PERは、株価÷1株当たり利益で算出することができ、一般にPERの数値が小さいほど割安と判断されます。
- 東証株価指数（TOPIX）は、今年に入ってからウクライナ情勢や主要中銀の大幅利上げに伴ってやや軟調に推移しています。一方、企業利益の予想は横ばいで推移しており、株価と利益予想で求められるPERは過去20年（2002年6月～2022年5月）の平均16倍に対して、12倍台で推移しています。

現状程度の低いPER水準では、過去は株価がしっかりと戻る展開

- 日本株には割安な印象が付きまとい、割安な株価評価となっても、株価上昇にはつながらないとの思いを抱いている投資家の皆さんも多いと思います。そこで、PERの水準とその後の株価の推移を過去20年間の月次データを遡って確認しました。これによると、現在のPERの水準である13倍未満の時は、その3年後の株価の上昇率が極めて高いことが分かりました。
- なお、5年後で見ても同様の傾向が観察され、PER13倍未満の時は+74.2%のリターンでした。ただ、例外的にPERが22倍以上でも全期間平均を上回る上昇がありました。これは、2009年のリーマンショック翌年で、極端に企業利益が落ち込んだ時期が該当します。利益が大きく落ち込んだためにPERが高まったのですが、その後5年の期間をかけて利益と株価が上昇したと考えられます。

【TOPIXのPER水準別 3年後の株価リターン】


(注) データは2002年6月～2022年5月（月次）。
 (出所) FactSet のデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

**ここも
チェック!**

2022年7月21日 日本株にまつわる5つの誤解 その3 日本企業はストレスに弱い？
 2022年7月15日 日本株にまつわる5つの誤解 その2 日本企業のROEは低いの？

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。